

## ★ 中晩生水稲での穂いもちの発生に注意！！ ★

8月中旬に行った巡回調査の結果、葉いもち（写真左）は山城地域で平年比やや多い発生でした（表）。

また、8月1日から18日までの京田辺における日照時間は平年の53.2%（本年：67.7時間、平年：127.2時間）となっています。さらに、向こう1か月の気温は平年並または低く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ないと予想されています。

今後は、移植時の箱施用薬剤の効果が低下する時期と考えられ、中晩生水稲では、今後の気象条件によっては、穂いもち（写真右）が多発することが予想されますので、葉いもちの発生が多い場合は、治療効果がある薬剤などで防除を徹底しましょう。

表 葉いもち巡回調査結果

	項目	本年	平年値
山城	発生ほ場率(%)	50.0	31.7
	発病株率(%)	13.3	5.0
	発病葉率(%)	0.33	0.05
南丹	発生ほ場率(%)	22.2	33.7
	発病株率(%)	10.7	7.1
	発病葉率(%)	0.18	0.20
中丹	発生ほ場率(%)	0.0	16.4
	発病株率(%)	0.0	2.5
	発病葉率(%)	0.00	0.05
丹後	発生ほ場率(%)	0.0	10.3
	発病株率(%)	0.0	1.7
	発病葉率(%)	0.00	0.04



写真 葉いもち病（左）と穂いもち病（右）

## ☆防除上の留意事項☆

- (1) 上位葉へ進展した葉いもちの病斑は、穂いもちの重要な伝染源となる。
- (2) ヒノヒカリ、祝など発病しやすい品種や、すでに葉いもちが多発している田、山間部では特に注意し、防除適期に薬剤防除を実施する。
- (3) 出穂後曇雨天が続く場合には、傾穂期前後にも防除を行う。特に枝梗は遅くまで菌の侵入を受けるので、枝梗いもちの発生に注意する。
- (4) 葉いもちの発生が多い場合は、治療効果がある薬剤（カスガマイシン剤：商品名カスミン剤等、フェリムゾン・フサライド剤：商品名 ブラシン剤等）で防除する。
- (5) 平成25年度に中丹地域の一部でストロビルリン系薬剤（QoI剤）耐性菌が発生した。耐性菌の発生地域では平成26年度は、いもち病に対するQoI剤の使用を中止し、他系統の薬剤（抵抗性誘導剤、MBI-R剤等）を使用する。QoI剤を使用したほ場で、防除効果の低下が疑われる場合は、他系統の薬剤で追加防除を行うとともに、速やかに病害虫防除所または、関係機関に連絡する。

詳細は京都府病害虫防除所ホームページ

(アドレス [http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/news20131113\\_1.pdf](http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/news20131113_1.pdf))  
を参照のこと。

- (6) 防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。
- (7) 農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用する。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照のこと。

(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)

## <参考>

京都府奨励品種の中生品種：日本晴、祭り晴、京の輝き、祝、カグラモチ、新羽二重糯

// 晩生品種：ヒノヒカリ